

子宮がん検診（神奈川方式）

動 向

神奈川方式による子宮がん検診は、神奈川県内に子宮がん検診のネットワークを構築することを目的に、昭和44年、日本母性保護医協会創立20周年を記念して日産婦学会神奈川地方部会との協力事業としてスタートしたものである。県産科婦人科医会会員医療機関から郵便により送付されてくる細胞、組織材料について鏡検、・判定を行い、その結果を医療機関に返送しているシステムである。神奈川方式と呼ばれている。

精度管理については、当該医療機関の協力により精密検査対象者についての追跡調査が当協会の臨床検査部により行われ、県産科婦人科医会のご協力により年一回の報告会を開催している。

平成27年度は、頸部検診において検査数20,246件（前年比－2,088）、受診者数18,695名（前年比－2,162）であった。

関係諸機関のご指導ご協力のもと47年間実施してきた子宮がん検診（神奈川方式）は、所期の目的を達成できたと判断し、平成27年度末をもって事業を終了した。

方 法

神奈川方式による子宮がん検診は、子宮頸部と体部検診からなり、その検査総数はここ3年間でみると30,085件（H25）、28,105件（H26）で前年比1,980件（6.58%）の減少であった。平成27年度は当年度で終了との事もあり25,264件で前年比2,841件（10.11%）の減少であった。しかし追跡結果については、委託終了後も医療機関の協力により受診状況不詳17名（4.58%）と例年並みの精検追跡結果（95.42%）を得る事が出来た。

子宮頸がん検診

平成27年度の頸がん検診受診者総数は、18,695名（前年度20,857名）で、前年度受診者より2,162名（10.37%）の減少であった。

がん確定者数は35名（前年度57名）で、その他のがんと体がんを除く、頸がん確定者は31名（0.17%；前年度53名0.25%）。年代別では20歳代2名（0.07%）、30歳代13名（0.26%）、40歳代7名（0.17%）、

50歳代5名（0.20%）、60歳代3名（0.13%）、70歳代1名（0.06%）で、30歳代にがん発見率が高い傾向を認めた。20歳代では上皮内癌2名のみであった。特に30～40歳代では上皮内癌14名（18名中）、上皮内腺癌は1名で30歳代からであった。扁平上皮癌は6名中50歳代、60歳代からそれぞれ2名で、腺癌4名は30歳代、40歳代、50歳代、70歳代にそれぞれ見られた。20歳代での早期がんの発見はもちろん、30歳代以降の早期発見のためにも、受診率向上の啓蒙が引き続き必要と思われる。

子宮体がん検診

平成27年度の子宮体がん検診受診者総数は、4,872名（前年度5,602名）で、陰性4,719名（96.86%）。陰性・再検5名（0.10%）；異常なし3名、追跡途中2名。疑陽性45名（0.92%）；体がんⅠ期7名（0.14%）、卵巣癌1名（0.02%）、異型内膜増殖症1名（0.02%）、増殖症1名（0.02%）良性疾患4名、異常なし9名、追跡途中20名、受診状況不詳2名。陽性17名（0.12%）；体がんⅠ期9名（0.18%）、Ⅱ期以上3名（0.06%）、病期不詳2名（0.04%）、転移癌（前年直腸癌手術）1名（0.02%）、異型内膜増殖症1名（0.02%）、追跡途中1名（0.02%）。判定不能86名（1.77%）であった。その他のがんを含むがん確定者数は23名（0.47%）で、昨年は40歳以上であったが、今年度は30歳代からも1名（0.22%）の体がんが発見され若年化傾向を認めた。

病理組織検査結果

平成27年度の病理組織検査件数は、319件（前年度397件）で、前年より78件（19.65%）の減少であった。病理診断結果は、子宮頸部扁平上皮癌5件（1.57%）、扁平上皮内癌23件（7.21%）、転移癌1件（0.31%）、中等度異形成13件（4.08%）、異型上皮を含む軽度異形成84件（26.33%）、内膜腺癌6件（1.88%）、異型内膜増殖症2件（0.63%）、内膜増殖症11件（3.45%）、その他の良性疾患159件（49.84%）、異常なし13件（4.08%）、診断不能例は2件（0.63%）であった。

関係の集計表は94頁に掲載